

# 浦和は真の一流になれるか

浦和レッズに、もの申したい。

2007年にアジア・チャンピオンズリーグを制した頃の強さはどこへ。強力な外国人選手獲得と、日本代表級を次々に引き抜いた貪欲さはどこへ消えたのか。

08年に7位に終わり、育成重視という名の人件費削減にかじを切った。もちろん育成は重要だが、常勝と育成を両立させ、Jリーグを牽引する立場にいるのだ。

首都圏に位置し、本拠は収容6万3700人の埼玉スタジアム。

パックは世界的企業の三菱グループだ。09年度の営業収入約64億円は、2位名古屋を19億円も引き離す。観客動員数も圧倒的で、レッズが抜けるだけでJリーグ平均が2500人も減る。

## Jリーグを 学問する

平田竹男



③

強かった頃には「アジアを制して世界に打って出る」との理念があった。代表級の引き抜き、外国籍選手、ユース育成、新卒の生え抜きの並立を試みていた。ユースや新卒重視だけで「強化」とは言えない。マンチェスター・ユナイテッド(英)はベッカムらを放出し、勝ちながら新陳代謝を図っている。「アジア版マンU」になれる潜在能力が、レッズにはあるのに。目の肥えたファンは離れつつある。収入減→選手人件費削減という負のスパイラルが始まっている。地元と親会社との関係も微妙だ。三菱自動車は97年の総会屋事件や00年のリコール隠し事件があってもレッズの親会社であり続け、ファンは冷静だった。その後、入場料収入と親会社以外のスポンサーが増え、今や親会社は赤字補填はせず、ユニホームの背中に名前が出る程度のスポンサーとなり、レッズは財務的には独立経営だ。それでも三菱自動車は資本金比率50%超を維持し、カネは出さないがヒトとクチは出し続け、子会社的に「管理」しようとしている点が地元の不満だ。

現在、三菱自動車は経営不振で三菱商事や三菱重工が経営支援している。そういう状態なら親会社が離れるのは一般的な流れだろう。しかし、三菱グループの提供する欧州サッカー番組を見て育った私は、逆の期待をしてみよう。

「身の丈経営」という言葉がある。クラブの規模に見合った現実的な経営という意味だ。私は問いたい。レッズの、三菱グループの「身の丈」はこの程度なのかと。

(早大大学院教授)